

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol. 2



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2008 Autumn-Winter



Photo：時代の人びと

- 開館一周年記念展
「発掘された日本列島 2008」について 2
- 企画展 “ひょうごの遺跡” vol.1 3
- ふるさと発掘展「酒の考古学」 4
- 考古学トピックス
イベント 再現!!
古代のまじない「ひとがた流し」 5
- 新しい研究活動のかたち 6
- 学びの場を博物館へ 7
- イベントスケジュール 8

開館一周年記念展

「発掘された日本列島2008」について

学芸課 中 村 弘

全国の遺跡で発掘された最新成果が9月13日（土）～10月19日（日）の間、兵庫県立考古博物館にやってきます。日本では、毎年9,000件を越える発掘調査が行われて、数多くの成果が日々蓄積されています。これらは一つとして同じものがなく、それぞれが個性的で、文献ではわからない、地域ごとの文化や歴史を雄弁に物語ってくれます。特に日本列島は南北に長く、親潮や黒潮の影響もあって豊かな地域色を見せてくれます。それは数千年前の昔から同じで、人々は自然のもたらした恵みをいっぱいを受けとめ、様々な文化を生み出していきました。

こうした日本の豊かな地域色を表す多くの発掘成果も、一般の方々が目にすることができるのはそのごく一握りだけのものです。

今回、文化庁をはじめとする他の機関との共催で全国の注目される発掘調査成果の数々をいち早く、できるだけ多くの方々にわかりやすくご覧いただける展覧会を行うこととなりました。

展示品の時代も旧石器時代から近世まで、地域も岩手県から鹿児島県までと非常に広範囲にわたっていて、そのすべてをここで詳しくご紹介することはできませんが、いくつかの展示品について紹介します。

◇
まずは、弥生時代の寺福童遺跡（福岡県小郡市）です。川沿いの低い台地に立地した遺跡で、古代の集落遺跡を対象に調査をはじめたところ、弥生時代中期後半から後期前半にかけての銅戈を



寺福童遺跡（福岡県） 銅戈の埋納状況

埋納した状況が見つかりました。丁寧な調査のおかげで様々なことがわかりましたが、その一つは「穴に入れた銅戈を何度か出し入れをしていた」ということです。穴の中から他の銅戈の小さな破片が出土したことからわかりました。埋められた青銅器のナゾがさらに深まります。

展覧会では、出土した全ての銅戈9本のほか、埋納された様子がわかるように埋納坑の切り取り模型も展示します。



太子塚古墳（群馬県） 盾持ち人埴輪

次は、古墳時代の太子塚古墳（群馬県高崎市）です。直径20mの円墳に長さ5mの小さな前方部が取り付け付いた帆立貝式古墳とよばれるもので、周囲には溝がめぐっていました。展示されるのはこの溝から出土した埴輪群です。近畿地方で目にすることはまれですが、関東地方では多彩な埴輪が見られます。この古墳からも美豆良の男子像、何かを捧げ持つ女子像、刀を持ち琴をひく男子像、盾を持った人々が出土しています。また、動物の埴輪として馬や鹿がありますが、そのうち、鹿の胴部には矢が刺さり血を流す表現が認められます。『播磨国風土記』讃容郡の条に、鹿の血に稲を蒔いたところ一夜で苗が生えた、という説話がのせられています。時代と地域が異なりますが、いずれも鹿の血の呪術性がうかがえる資料です。

これらのほかに、南海に浮かぶ奄美大島で見つかった土盛マツノト遺跡（鹿児島県奄美市）があります。ヤコウガイを使って貝匙を作っていた遺跡で、ヤコウガイは奈良～平安時代には、螺鈿細工の材料としてもヤマトで珍重されました。



土盛マツノト遺跡（鹿児島県）貝匙の製造過程

兵庫県内の遺跡から出土した資料も展示されます。神戸市の塩田北山東古墳から出土した鏡ですが、この鏡には仏像が描かれています。仏教が公伝される200年も前、異国の神が描かれた鏡を見て神戸の古墳時代人はどう思ったのでしょうか。

こうした発掘成果の速報展覧会は平成7年度よ

り文化庁を中心に全国の展示施設で行われてきましたが、今回は新たな試みとして、文化庁が取り組んでいる事業についても紹介することとなりました。

一つは、史跡「石見銀山遺跡」です。昨年七月に登録された世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の中核をなす遺跡で、古絵図などとともに世界遺産としての全体像を発掘調査成果を中心にご紹介します。

もう一つは、特別史跡「高松塚古墳」です。国宝壁画の保存・修理のために行われた、石室の取り出し作業に伴う発掘調査において明らかになった、古墳の築造技術を中心に紹介します。

この「発掘された日本列島2008」に合わせて兵庫県独自の展覧会「ひょうご五カ国の考古学」も考古博物館に隣接する播磨町郷土資料館で行います。兵庫の豊かな地域性がでるよう、県下各地から選りすぐりの展示品を並べます。こちら是非ご覧下さい。

企画展

“ひょうごの遺跡” vol.1

学芸課 藤田 淳

当館は埋蔵文化財の調査機能をもった全国でも例のない博物館です。そのため、開発事業との調整を図りながら遺跡の発掘調査を行うこと、また、出土品の整理作業をとおして、その成果を発掘調査報告書として刊行することも、博物館の大切な仕事となります。

今回の企画展「“ひょうごの遺跡” vol.1」では、考古博物館が行う発掘調査・整理事業のうち、平成19年度に行われた「出土品整理事業」の成果を紹介いたします。

平成19年度は新たに22遺跡の整理作業が完了し、みなさんにご紹介できるようになりました。

なかでも大型掘立柱建物をもつ古墳時代の首長居館が発見された柿坪遺跡（朝来市）や、平安時代末の福原遷都に際し、仮御所とされた平頼盛邸と推定される邸宅跡が発見された楠・荒田町遺跡（神戸市）、中世の庭園跡が発掘された場市遺跡（養父市）などは、発掘調査時にも大きな話題となった遺跡です。整理作業をとおして、遺構や遺物に様々な角度から検討を加えることによって、遺跡の内容が一層明らかとなり、新たな事実も判明しました。

発掘調査の数倍の歳月をかけてまとめられた整

理作業の成果をご覧いただきたいと思います。会期は11月15日（土）～12月21日（日）です。



場市遺跡（養父市）出土の水滴



柿坪遺跡（朝来市）の居館跡

ふるさと発掘展「酒の考古学」

学芸課 多賀茂治

兵庫県立考古博物館では博物館から飛び出して、県内各地の歴史文化遺産を素材に展覧会やイベントを行う「ふるさと発掘展」を開催しています。今年は11月1日から12月14日まで、伊丹市立博物館と共同で「酒の考古学」と題して、伊丹市内で開催します。

伊丹は、江戸時代に江戸積酒造業の中心として繁栄した、日本を代表する酒どころです。明治時代以降も大小の酒造業者が蔵を並べ、銘醸地としての地位を保ちながら現在に至っています。今回のふるさと発掘展では、“日本酒のふるさと”伊丹の地で、“つくる”“のむ”をテーマに、県内各地の遺跡からの出土品などにより酒の歴史をごらんいただきます。



現在私たちは日本酒や焼酎などの伝統的な酒に加え、ビールやワインなど世界各地に起源をもつ酒を飲んでいますが、酒は元来、各地の気候風土や固有の文化の中で育まれてきたものであり、宗教や生活習慣と結びついた民族の文化を象徴する飲料です。

日本では、縄文時代にニワトコなどの木の実を使った果実酒があったとも言われますが、今の日本酒につながる、米を原料とし、麴カビを使って醸す酒は、弥生時代、米作りとともに大陸から伝えられたものです。3世紀（弥生時代末）の日本列島のことを記した「魏志倭人伝」には、「人性酒を嗜む。」との記述があり、弥生人も酒を好んでいたようです。

弥生時代～古墳時代の土器の中には、酒器と考えてもよいものがありますが、酒そのものについては謎が多く、材料や作り方がわかってくるのは、奈良時代以降です。「延喜式」に様々な酒の材料や酒造りの道具に関する記述があり、また役所や有力者の邸宅からは、宴会に使った飲酒具が出土します。

中世には京都などの都市で商品としての酒づくりが盛んになります。中世末期に奈良の寺院で現在の日本酒のもととなった「南都諸白」が造られ、これにさらに技術的改良を加えた「伊丹諸白」が、伊丹が江戸積酒造業として繁栄する原動力となりました。

江戸積酒造業としては、まず江戸時代中期に伊丹が栄え、その後江戸時代後期になって新興地の灘五郷（神戸市・西宮市）が栄えました。考古学で酒造りの遺跡を確実におさえることができるのは、実はこの江戸時代になってからです。伊丹郷町や灘五郷では、近年酒蔵跡の発掘が数多くおこなわれ、江戸時代の酒づくりの様子が明らかになってきています。

また伊丹郷町や明石城武家屋敷跡など、江戸時代の遺跡からは、様々な酒器が出土します。酒が日常生活の中に定着し、武士も町人も家庭の中で酒を大いに飲んでいたようです。

明治時代になると、文明開化・殖産興業の国家的プロジェクトとして、国営ワイン醸造所「播州葡萄園」が、現在の稲美町に開園します。しかし、わずか数年でプロジェクトは頓挫し、葡萄園はもとの田畑にかえりましたが、地中に残された遺跡は、先人たちの試みを今に伝えるものとして、国指定史跡になっています。

そして現在も兵庫県は日本酒生産量日本一の座を占めており、日本酒以外にもワインやビールなど様々な酒が醸造されています。この兵庫の酒造りの伝統を遠い過去にまでさかのぼってご覧いただき、日々口にする一献の酒に込められた物語に想いをめぐらせてみてください。



展覧会の開催にあわせて、重要文化財旧岡田家酒蔵など伊丹市内の施設で「酒」をテーマにした講演会、イベントをおこないます。秋の一日、伊丹の町で「酒」をお楽しみください。



伊丹に残る
江戸時代の酒蔵

重要文化財
岡田家住宅



発掘された酒蔵のかまど
—伊丹市伊丹郷町—

考古学トピックス

イベント再現!! 古代のまじない「ひとがた流し」

学芸課長 大 平 茂

テーマ展示「社会 国のなりたち」の最後のコーナーに、但馬袴狭遺跡群から出土した人形など大量の木製祭祀具を展示しています。

これらは、古墳造りに力を注ぐ時代が終わった後、大和朝廷が創り出した神祇祭祀（国家による神々のまつり）の一つ、大祓の儀式に但馬国の役人たちが使用したものなのです。



出土した人形

人形は穢れを付けるための形代、馬形や舟形は穢れの付いた人形を他界に運ぶための乗り物、斎串は祓戸の結界を示すものと考えられています。

この儀式を、6月と12月の晦日に都と各地国府などで行うことによって、宮中・京中、さらに全国の7月中元と正月元旦は清浄な清々しい朝になるのです。当時、病気や災害などの悪い出来事は、身に付いた穢れや知らず知らずの間におかした罪が原因で起こると考えられていたからです。現代でも、各地の神社では紙製の人形を使用した祓が実修されています。

イベントの計画・準備

学芸課では、この伝統行事を延喜式などに記載された古代と同じ方法で、イベントに再現できないかと考古楽者の方々と共に検討を重ねてきました。

そして、6月29日（1日早いのですが）の午後に博物館講堂と喜瀬川の中州に設けた祓戸において、みだしのタイトルで考古博バージョン「水無月（夏越）の大祓」を執り行ったのです。

喜瀬川に設けた祓戸には、四方の隅に大きな斎串を立て、これを荒縄でつなぎ、縄には紙手を取り付けました。また、その下には小さな斎串を挿し、結界をはった訳です。周囲には馬形も置きます。中には案を据え、ここに祓物と酒・米・塩を

供えました。

準備完了です。参集者もそれぞれ人形に顔を描き、懷に持っています。祓主の中臣氏以下3名（配役、考古楽者）が祓の後、所定の座に着きました。

本番「ひとがた流し」

まず、大祓詞を中臣氏を読み上げます。登場するのは、罪・穢れを消し去る祓戸大神たちです。



祝詞を読む考古楽者

この後、参集者の皆さんには人形を手で持って、息を吹きかけ一撫でしていただきます。次いで、中臣氏が大祓麻で案の祓物、そして参集者の人形を祓います。さらに、麻布を裂く祓の術（天津菅曾）を執り行いました。神社では、散米も行っています。



参加者によるひとがた流し

最後は、ハイライトの人形流しです。人面墨書土器を流した後に、参集者も水の流れの傍まで降り、順次人形を流していただきました。

当日は雨も降ったのですが、予定のスケジュールを無事終えることができました。これも、ひとえに考古楽者の精進と、関係者（洲本市厳島神社、明石市御厨神社）の協力の賜物と感謝しております。

新しい研究活動のかたち

企画広報課 高瀬 一 嘉

開館2年目を迎えて「弥生のムラづくり」と呼ぶにふさわしい新しい試みを進めています。



ひとつは竪穴住居の復元です。隣接する史跡「大中遺跡」には、すでに5軒の復元竪穴住居があります。これらは史跡整備工事の一環として復元したものです。このたび、自分たちの手で復元住居を完成させることを目的にプロジェクトが始まりました。

建築部材となる柱材や屋根を葺くヨシは里山林保全活動や、ため池環境保全活動の団体と連携して調達しました。国立明石高等専門学校と連携して竪穴住居の構造の研究を進めています。柱の立て方から始まり、梁と桁の組み方、垂木と小舞の連結方法など、実際の作業をとおして知見が得られることが多く、考古資料の建築部材の使用例に新しい解釈が得られるのではないかと期待されます。



復元住居は毎年1軒ずつ増やしていく計画です。実際に生活を行って竪穴住居の構造や住まい方にまで踏み込んだ研究を行ってみたいと考えて

います。

もうひとつは当館のボランティア、考古楽倶楽部と取り組んでいる米作りです。

1年目の今年は約500m²の水田に5種類（対馬



赤米・種子島赤米・紫黒米・コシヒカリ・ハリマモチ)の米を栽培しています。6月15日に行った田植えは約40人の参加者で盛り上がりました。今後は石包丁を使った米の刈り取り、収穫した米は炊飯や餅つきなどのイベントでの使用、あるいは酒蔵と連携して酒づくりなどを行っていく予定です。

稲は1週間ごとにデータを取り、成長過程を記録しています。来年以降は稲の栽培方法を変えたり、復元した農具の使用実験を行うなど古代の農耕の解明に一歩でも近づくことができればと考えています。

水田耕作と並行して畑作も行っています。発掘調査で栽培が確認された作物を栽培しています。古代の食生活の復元をしたいとみんな意気込んで取り組んでいます。今後の成果をお楽しみに。



学びの場を博物館へ

学習支援課 仲田 高 幸

開館して10カ月が経過しました。その間、考古博物館を訪れた学校は幼稚園3、小学校95、中学校10、高等学校7、大学15、特別支援学校1、合計131校（7月末現在）です。4～5月では小学校6年生が71も来館していただきました。ご利用ありがとうございました。

考古博物館ではたくさんの学校団体に利用していただくための努力や工夫をしています。

1. 歴史への導入－5つの古代体験－

団体予約の際、学習室を予約されますと全員で同じ種類の古代体験ができます。指導は考古楽者（考古博物館のボランティア）のみなさん。わかりやすく親切がモットーです。

古代体験の種類は「ミニミニ石包丁づくり」、「まが玉」、「ループで組みひも」、「土器あわせ」、「古代の火をおこそう」です。それぞれ解説を聞いた後の体験となります。

2. 学校と博物館をつなぐ

－壁新聞コンテスト－



来館された小学校・中学校に「考古博物館を取材し新聞を作ろう」と呼びかけました。応募は15小学校から346点にのぼりました。博物館見学のまとめとして新聞を作った人、新聞を作るために考古博物館を訪れた人。どちらも目的をもった学習ができたと考えています。

6月25日に表彰式をネットワーク広場で開催しました。入賞者には館長の石野から表彰状と賞品をお渡ししました。

3. 続々と職場体験－実習生の受け入れ－

大学生の博物館実習や高校生のインターンシップ、中学生のトライやるウィークと考古博物館で実習や職場体験を希望される学生・生徒を受け入れています。

お客様に喜ばれる接客のしかたや古代体験の指導補助など、博物館の展示部門の仕事や、出土物の整理など調査研究部門の仕事を体験しました。



トライやるウィークにて

4. スペシャリスト養成

－夏休み教員セミナー－

「授業に使える古代体験」と称して小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の先生方を対象にしたセミナーを8月5日と21日の2日間同じ内容で開催します。大変な人気で定員を超える申し込みがありました。体験メニューを先生方に体験してもらい、教育現場で実践していただけるとこの上もない喜びです。来年の2月12日には「教えよう！弥生時代の兵庫県」を開催します。

5. 大活躍－考古博ボランティア－

「おはようございます」

今日もボランティアルームに元気のよいあいさつが飛び交います。学校団体の展示案内や古代体験指導に大活躍のボランティアの皆さん。4・5月、たくさんの学校団体が来られたときに子どもたちの疑問に見事に答えた考古楽者さんたち。考古博物館はまぎれもなく92名のボランティアに支えられています。

「また来てね」と明るいお別れのあいさつが多くのリピーターを呼ぶ予感がします。



イベント・スケジュール

展 覧 会		学		体 験 す る	
当 館	地方会場	講 演 会 ・ 講 座	展示解説・館内ツアー	イ ベ ント	講 座
9月	9月13日 ～10月19日	9/13(土) 「発掘された日本列島 2008の楽しみ方」 9/20(土) 「高松塚壁画の鑑賞法」 9/27(土) 「私が歩んだ播磨の考古学」 9/28(日) 「ふるきをのこし・つたえる あたらしき技」	9/13(土) バックヤード見学ツアー 9/14(日) 列島展・地域展展示解説 9/21(日) 列島展・地域展展示解説 9/28(日) 列島展・地域展展示解説		9/14(日) 本格勾玉づくり 9/26(金) ループ組紐ステップアップ講座
	10月	10/4(土) 「鉱山の技と町なみ -石見と生野の銀山-」 10/11(土) 「私と但馬の考古学」 10/18(土) 「ひょうご考古学のあゆみ」	10/5(日) 列島展・地域展展示解説 10/11(土) バックヤード見学ツアー 10/12(日) 列島展・地域展展示解説 10/19(日) 列島展・地域展展示解説 10/26(日) テーマ展展示解説		10/5(日) 体験！展示室で写生会 10/12(日) 本格土器づくり 10/19(日) 古墳の壁画を描こう 10/31(金) ループ組紐ステップアップ講座
11月	11月1日 ～12月14日	11/15(土) 「楠・荒田町遺跡と福原京」	11/8(土) バックヤード見学ツアー 11/9(日) テーマ展展示解説 11/16(日) 企画展展示解説 11/23(日) 企画展展示解説 11/30(日) 企画展展示解説	11/1(土) 考古博古代体験 秋まつり	11/2(日) 本格土器づくり(土器焼き) 11/16(日) 本格石包丁づくり 11/24(月) どんぐりで遊ぼう 11/28(金) ループ組紐ステップアップ講座
	12月	12/6(土) 「古墳時代の首長居館」	12/7(日) 企画展展示解説 12/13(土) バックヤード見学ツアー 12/14(日) 企画展展示解説 12/21(日) 企画展展示解説 12/28(日) テーマ展展示解説	12/23(火) 12/25(木) クリスマスシアター	12/7(日) 本格ループ組紐 12/21(日) しめ縄をつくろう
1月	1月	1/24(土) 「弥生集落の盛衰」	1/10(土) バックヤード見学ツアー 考古学者養成セミナー公開講座 1/11(日) テーマ展展示解説 1/25(日) テーマ展展示解説	1/2(金) たこあげコンテスト 1/3(土) 新春餅つき ごうこはカルタ大会 1/10(土) 1/12(月) 考古博であそぼう	
	2月	2/12(木) 教員セミナー「教えよう！ 弥生時代の兵庫県」 2/21(土) 「文化財のお医者さん -保存科学の現場から-」	2/8(日) テーマ展展示解説 2/14(土) バックヤード見学ツアー 2/22(日) テーマ展展示解説	2/11(水) 考古博であそぼう	2/8(日) 本格勾玉づくり
3月	3月21(土)	「古墳出現期の播磨の 社会-住還する墳墓-」	3/14(土) バックヤード見学ツアー 3/29(日) 発掘調査報告会	3/20(金) 考古博であそぼう	3/8(日) 遺跡ウォーク 3/28(土) ユースセミナー 「大中遺跡で遊ぼう」
	3月29日 ～4月12日	2008 企画展 「発掘調査速報」			

※1月27日(火)～1月30日(金)はメンテナンスのため臨時休館します。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.2 2008 Autumn-Winter

発行年月日 平成20年8月31日
編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用
ください(普通車 1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

